60

へ13
1961
60

貧福両道中の記

四人詰南ぺん操

京傳

60 三冊合
遠
1161
~~152~~
149

73
1961
60

自叙

古語曰生涯似旅と宜哉。門招の一里塚あるべ歳越て
四屋場あり角日の飛脚川留と逢行き除中
馬士立場ふ休場年乃関取手形い行べ驛
路の給ひ呼りめくも渡戸無充の坂人間ちりの五十三次。
旅籠ち錢の三箭あり福海道ち富庶あるも貧海道の
折麻なるも迷ひ乃雲助酒代を祈ぶり。意馬心猿ち
縄田多さ忽胡麻の縄ち終舟ち譬屋一則
駄賃帳のはしちゃ去る

癸丑ち年ち月春　山東京傳

鬼武重四郎

福海道

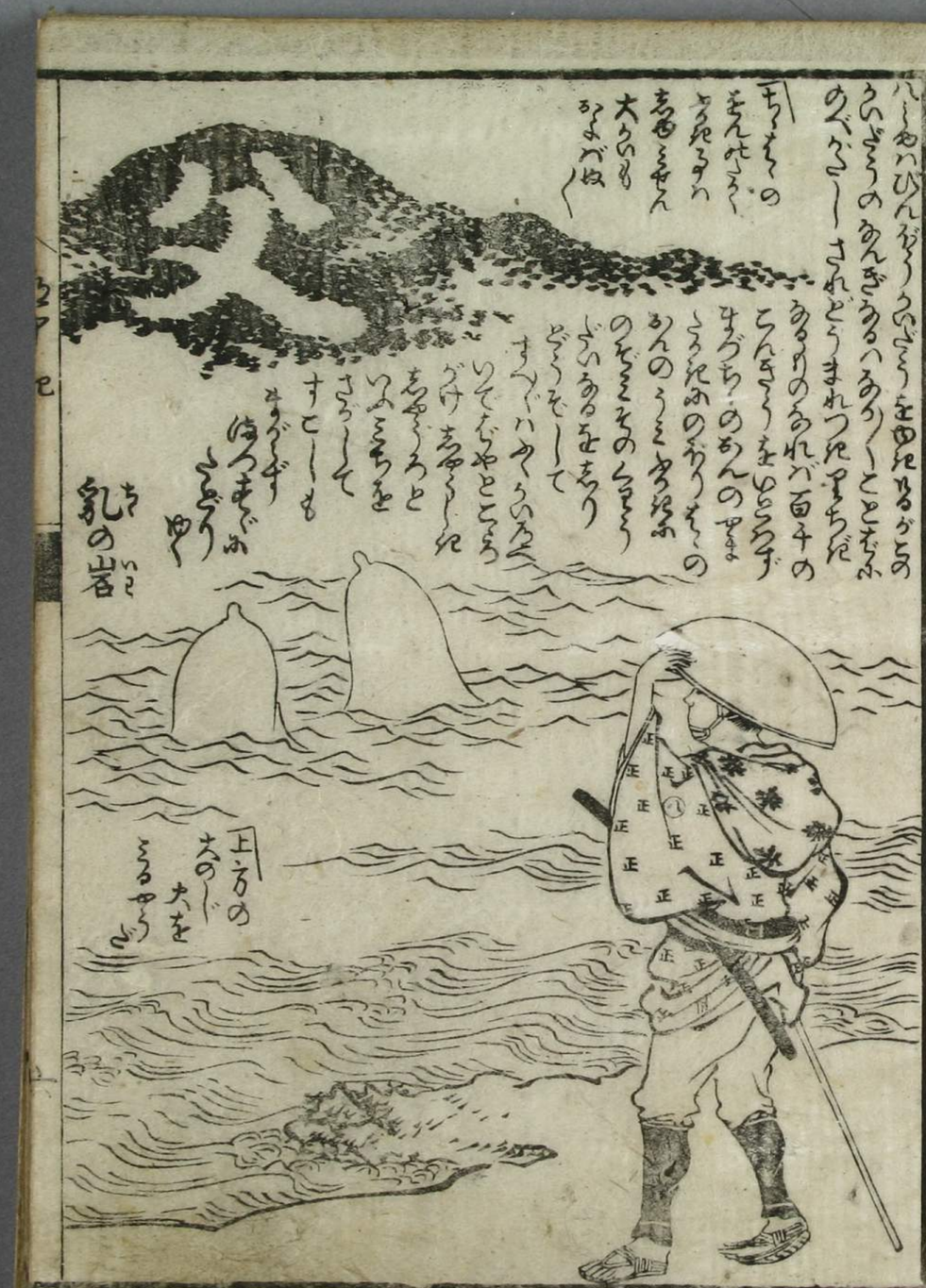
人乃一生道法り五十里

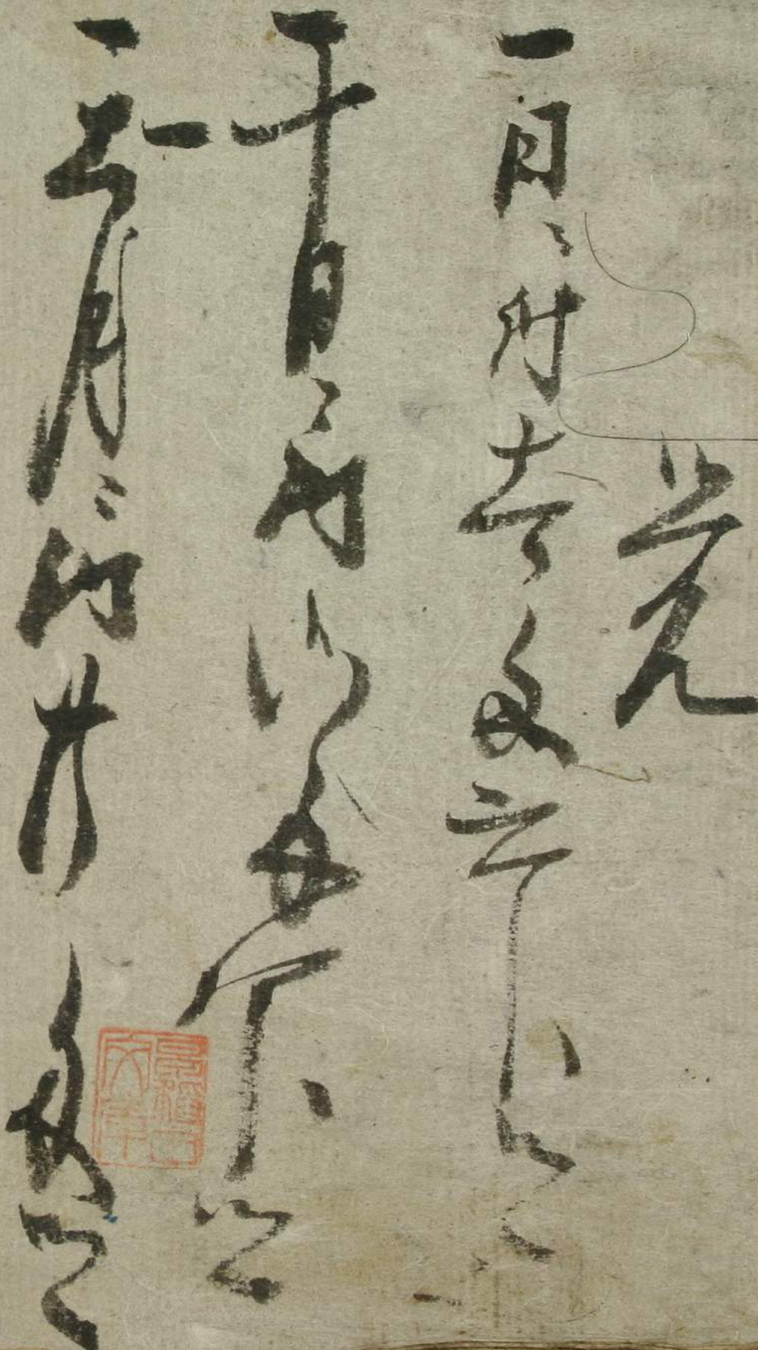
貧海道

中

貧福両道中之記

通油町 蔦屋板


乳の岩
上方の大のじ大をるやうど



そもそもこの三ぢの和尚は人ゐ
れぐそられそろ〳〵
あさ山ろふさ〳〵ろ〳〵と
のこきみやまをぐろと
ゆれすきる
こまろうそんこち河ど
まるとちろ〳〵村つぐ〳〵ぶ
これとやがあろてこみせん
河ろくあれすす
あんむ石とやてこいろて
ゆのせ紀もこぐりすす
ちくもちよりとれこちろう
ろされそう〳〵ちろと
ろろくところろみろろ
きうとのしゆくをひる
ぢをこみ〳〵てゆのぐり〳〵
けきうゆあ紀をぐろ〳〵ぐて
ちやのゆぐろ〳〵のぐり
ちいろ石とやいしを
ぐろ〳〵ぐすす
そのへんゆ
紀ぬ木てんしゆ
ろ〳〵やろけろ
あるぐろ
すす

ちゆろみころるが
ありぐさあまと
ヤのぐぐざろ
すす
えんがゝすや
かりろ〳〵ぬこぐ
すんでまり
すす

「このしゝを
まるとぐすの
とゝげとやて
やがてこの
ちちうへをう
ぢぐぐざりすす
けぐろうあぐし
ろ〳〵どもが
かつれやてきつこ
そんみこんやうやみ
ぬいあろれ
ヤすすやめ

「かなくさぬかろゆがぐろ
うくみかちぬがたる
ろろれみ〳〵ろのぐろ
いさくし〳〵どもかすこ
ろゆのあいろくま
いちえいかし
ろんふがれま
かぐ〳〵さ
ろろ〳〵

さるろぐも
三ぢ弟いあ人
そのうさぎれて
いゝ〜ぢりうくあり
つのふびゆろくはをを
とりてものびの
ほうぐうをひゝくの
ちゑ〜さみのいろをを
ゝぐりれとゝみちんぐんぐ
さんちのーてゝぐ川をけうりて

やの

このさるぐもを
うゝめりて
やろ〜の
アちちゝ
ぐぐ
ぐんす

やうろうのうぐもを名木の
七ツむめをあぐめて大めれんとあり
三日三夜とうりうーて
大さふろぐんを
はうひゝ〜す

ゝるが元のうえ
えぐすうあ
えぐすあ
えのぐ
ゝとゝの
ちゝよ

ゆうもうの
ちあんぐで
あらふそう
をゆあせろちんの
あのうろうん
ゆうしろふ
いうあり好き
ゆうしろの
やうろ

三日さんやとうさまのうちまへの川ふかあるして川をあふあひたれいろそのくされとまさたいやをぐあらひへなりかこりのちんぐんのきさまもれをうめてあものこやうをのこやあてまさ大さふろぐんをつくるみんな
川の川ゆくもまものもを川といいうをの川へ流ぐくぐらんのいろるあるー川といふもこのこん
おどりのちんぐんのきさまもたいろさとうげをこてゆく
こりふりちのこんをかいてるいるいろ
あるいとうさまのぐんせ
あとふちうさこうーやぐゆるもく
ひけばやぐーつるぐ
及中記

下

東

矣福安乃帝ゝ記

通油町　蔦屋板

癸丑春

山東亭主人製

四東

十万人云用

ふじさんの山
このへん七ッや村と
いふなりて
牛ばりのを
あれるなり

右さるみち地蔵道
右ひのひぜんのさう
あやまるさいろさま

二

以來夫婦声
皇落知不孝
とりつくしまもんがあるべからず

十二

名木
金の
なる
木

老の坂
めんぐーあい
ろのどくる

ろどまろの一りつろ
あみくーあくる
あて八
ろくあ

大正十三年
正月元日